

## 食品衛生法第6条第2号の規定に基づき定める

### 放射性物質の指標値について

#### 1. 背景

平成23年3月11日に東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故が発生し、その後、周辺環境から通常より高い程度の放射能が検出されたため、厚生労働省は平成23年3月17日、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって国民の健康の保護を図ることを目的とする食品衛生法の観点から、原子力安全委員会により示された「飲食物摂取制限に関する指標」を暫定規制値とし、これを上回る食品については食品衛生法第6条第2号に当たるものとして食用に供されることがないように通知した。

本暫定規制値は、緊急を要するため食品健康影響評価を受けずに定めたものであることから、食品安全基本法に基づき食品健康影響評価を依頼し、その結果を踏まえ、改めて規制値を定めることとしている。

#### 2. 評価依頼の内容

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第6条第2号の規定に基づき、有毒な、若しくは有害な物質が含まれ、若しくは付着し、又はこれらの疑いがあるものとして、放射性物質について指標値を定めること。

#### 3. 暫定規制値

別添1

#### 4. 今後の予定

食品安全委員会の食品健康影響評価の評価結果を受け次第、必要な管理措置について検討

#### 5. 提出資料一覧

- ・原子力施設等の防災対策について  
（原子力安全委員会 平成22年8月一部改訂）
- ・放射線緊急時における公衆の防護のための介入に関する諸原則  
（ICRP Publication 63）
- ・CODEX GENERAL STANDARD FOR CONTAMINANTS AND TOXINS IN FOOD AND FEED  
（CODEX STAN 193-1995）

別添 1

○食品衛生法の観点から平成 23 年 3 月 17 日付けで厚生労働省が定めた暫定規制値

核 種	原子力施設等の防災対策に係る指針における 摂取制限に関する指標値 (Bq/kg)	
放射性ヨウ素 (混合核種の代表核種： <sup>131</sup> I)	飲料水	300
	牛乳・乳製品 注)	
	野菜類 (根菜、芋類を除く。)	2,000
放射性セシウム	飲料水	200
	牛乳・乳製品	
	野菜類	500
	穀類	
	肉・卵・魚・その他	
ウラン	乳幼児用食品	20
	飲料水	
	牛乳・乳製品	
	野菜類	100
	穀類	
	肉・卵・魚・その他	
プルトニウム及び超ウラン元素 のアルファ核種 ( <sup>238</sup> Pu, <sup>239</sup> Pu, <sup>240</sup> Pu, <sup>242</sup> Pu, <sup>241</sup> Am, <sup>242</sup> Cm, <sup>243</sup> Cm, <sup>244</sup> Cm 放射能濃度の 合計)	乳幼児用食品	1
	飲料水	
	牛乳・乳製品	
	野菜類	10
	穀物	
	肉・卵・魚・その他	

注) 100 Bq/kg を超えるものは、乳児用調製粉乳及び直接飲用に供する乳に使用しないよう指導すること。



<食品衛生法に基づく飲食物に関する暫定規制値について>

この暫定規制値を上回る食品について、食用に供されることがないよう販売その他について措置されることとなります。暫定規制値のうち、放射性ヨウ素と放射性セシウムに関する暫定規制値は以下のとおりです。

対象	放射性ヨウ素（混合核種の代表核種： <sup>131</sup> I）
飲料水	300 Bq / Kg
牛乳・乳製品（注）	
野菜類（根菜、芋類を除く。）	2000 Bq / Kg

（注）100Bq/kg を超えるものは、乳児用調製粉乳及び直接飲用に供する乳に使用しないよう指導すること

対象	放射性セシウム
飲料水	200 Bq / Kg
牛乳・乳製品	
野菜類	500 Bq / Kg
穀類	
肉・卵・魚・その他	

<放射能等の強さを示す単位について>（出典 1）及び 3）参照）

放射能とは、放射線（エックス線など）を出す能力のことを言います。ここで用いられている単位 Bq（ベクレル）とは、放射能の強さを計る単位であり、単位時間内に原子核が崩壊する数を表しています。1ベクレルは、1秒間に1個の原子核が崩壊して放射線を出す放射能の強さのことを言います。一方、人間が放射線を浴びた時の影響度を示す単位としては、Sv（シーベルト）があります。

Bq（ベクレル）とSv（シーベルト）は以下のように換算できます。

（例 1）

500Bqの放射性セシウム137が検出された飲食物を1kg食べた場合の人体への影響は、 $500 \times 1.3 \times 10^{-5(\ast)} = 0.0065\text{mSv}$ （ミリシーベルト = Svの1/1000）となります。

（例 2）

300Bqの放射性ヨウ素131が検出された飲食物を1kg食べた場合の人体への影響は、 $300 \times 2.2 \times 10^{-5(\ast)} = 0.0066\text{mSv}$ となります。

※実効線量係数（経口）：放射能の単位であるベクレルから生体影響の単位であるシーベルトに換算する係数。核種（放射能の種類）、化学形、摂取経路により放射線障害防止法などで規定されており、以上の例は、同法に基づく告示に規定された数値（経口摂取・成人）を用いています。